

少雨に対する農作物の技術対策

平成29年6月14日
農業技術課

1 経過

平成29年6月14日に甲府地方気象台より「少雨に関する山梨県気象情報第2号」が発表され、今後1週間程度は乾燥状態が続く見込み、とされています。直近では甲府観測地で6月7日に2mmの降水量を観測以降、降雨がない状態が続いており、土壌が乾燥しています。以下を参考に対策を徹底して下さい。

	H29降水量 mm	平年差 %
4/上	5.5	18
4/中	68	244
4/下	2.5	13
5/上	3	12
5/中	24.5	83
5/下	18.5	57
6/上	5.5	25

6月14日11時 山梨県の週間天気予報

日付	15 木	16 金	17 土	18 日	19 月	20 火	21 水	
山梨県	晴	晴時々曇	晴時々曇	曇	曇時々晴	曇時々晴	曇	
府県天気予報へ								
降水確率(%)	0/0/0/10	20	20	30	30	30	40	
信頼度	/	/	B	B	B	B	C	
甲府	最高(°C)	29	30 (27~33)	27 (24~31)	27 (23~30)	28 (24~32)	27 (23~31)	26 (22~30)
	最低(°C)	15	17 (16~19)	17 (15~19)	18 (16~20)	17 (16~19)	18 (16~20)	18 (16~19)
平年値	降水量の合計		最高最低気温					
	甲府 平年並 18 - 39mm		最低気温 18.3°C		最高気温 27.3°C			

2 技術対策（乾燥対策）

(1) 果 樹

- ・モモ、スモモの果実肥大やブドウの果粒肥大を図るため、定期的な灌水等を実施する。灌水を行う際、幹や葉に直接水がかかると、病気の発生を助長する可能性があるため、スプリンクラーのヘッド角度等に注意する。
- ・モモ、スモモでは、1回の灌水量を20～25mmで5～7日間隔。ブドウでは、1回の灌水量を25mmで5日間隔を目安に灌水を行う。
立木類の早生種では、収穫期を迎えるため、一度に多量の灌水は品質低下を招くので散水程度の灌水とする。
- ・樹冠下は、敷ワラや草刈により土壌の乾燥を防止する。
- ・灌水施設のない園では、樹冠下を中心に1樹当たり200～300ℓの灌水を行う。
- ・苗木や移植した樹は、根張りが不十分のため乾燥の害を受けやすいので、こまめに灌水を行う。
- ・オウトウでは裂果の心配があるため、収穫中は散水程度とし、収穫後にたっぷり灌水を行う。

(2) 野菜・花き

- ・スイートコーンでは、雄穂抽出期（節間伸長期）から収穫までの時期に乾燥すると果粒の肥大が悪くなり、品質低下につながるため、適宜灌水する。
- ・野菜・花きの露地栽培では、健全な生育を促すため、定期的に灌水する。
- ・うね間灌水する場合には、日中の暑い時間は避ける。また、株元まで水位を上げないように注意する。
- ・敷きワラや敷き草を行い、地温の上昇と水分の蒸発防止に努める。
- ・乾燥条件が続くと、ハダニやオオタバコガなどの害虫による被害が増加することが懸念されるため、ほ場での発生に注意し、発生初期の防除に努める。